

## 福臨技企画 1

「“New Normal” 新たな時代を迎えて～新型コロナウイルス感染下における技師会活動の今後～」

# 沖縄県臨床検査技師会のこれまでのとりくみと今後の課題

◎安里 光宏<sup>1)</sup>

社会医療法人敬愛会 中頭病院<sup>1)</sup>

沖縄県では2020年2月14日に初めてコロナ感染症が確認されて以降、人口10万人当たりの感染者数は全国最多の状況を幾度となく繰り返してきた。過去に類を見ない感染の爆発により人々の生活は様変わりし多くの制約を課せられる事態となり、沖縄県臨床検査技師会も同様に技師会活動全体に影響を受ける形となった。沖縄県臨床検査技師会理事の構成は、そのほとんどが県内の主要病院に勤務する検査部門の代表者であり、感染流行当初は各々の施設のPCR検査確立に翻弄しており技師会活動も捗らず苦慮する現実直面していた。その打開策としてまずは毎月行う理事会会議をZoomミーティング形式へ移行した。その中で各施設との情報交換もスムーズに行えるようになった結果、各施設のPCR検査の普及が一気に進んだような感を受けた。またコロナ禍の中での会員の技術向上のために、各部門研修会もリモートを取り入れるようになった。離島圏で地理的制約のある当会の会員にとってこの取り組みは、コロナ禍以前より多くの会員が参加できる環境となったのは確かである。

様々な制約がある中、沖縄県臨床検査技師会にとっての最も大きなイベントは、2021年度日臨技九州支部医学検査学会の沖縄県での開催であった。前年度担当の宮崎県は開催へ向け着々と準備をしている中、コロナ禍の影響を受け学会の開催自体を断念。沖縄県は宮崎県の分までとの思いで、日臨技九州支部学会の開催へ向けて取り組みを行った。学会執行部としては当初、可能な限り現地開催を求めていたが、一向に収まらないコロナ感染症の影響で最終的にはWeb開催を選択した。一般演題は各演者が事前収録し、特別講演や特別企画については当日現地収録し、その後Web配信を行った。Web開催としての学会は九州支部全体の協力もあり、会員1,094名の参加で幕を閉じた。

離島を多く抱える沖縄県にとって今回の経験は、学会や研修会等で県内の地域格差を無くす有効な手段を見つけた形となった。会議やその他イベントの開催に関しては今後選択肢が広がっていくものと予想される。